

迎々来海より水車より大入金に成り候  
酒多海に 江戸より水車橋に成り候水車

三つとて  
明るる水車橋に成り候水車

水車橋に成り候水車

十四日 廿四

十三日

水車橋に成り候水車

別列目録に成り候

水車橋に成り候水車

水車橋に成り候水車

水車橋に成り候水車

水車橋に成り候水車

水車橋に成り候水車

[illegible]

十五日晴

月信

多病如常

寶文齋

書寫在石上於石於石

四四

東山先生集卷之五

村々各々をめぐりて

竹石常節良保監印

將國務收歸之云云、亦分毫無作、

年累月之費亦必耗竭而力已死

辛酉年十月廿五日

按者道子之於山水

竹園先生書

印書局

追至平素

土百九

市面言  
作由多度此口作由多度此口

④ 幸而之門、公教を以て、  
江を以て、

客行如  
作山  
力  
法  
乃  
居  
進  
上  
山  
雲  
華  
上

品

印信











陽月... 子... 會... 所... 始... 法... 一...  
陽月... 子... 會... 所... 始... 法... 一...  
陽月... 子... 會... 所... 始... 法... 一...

十七日 晴

日記

... 晴... 會... 所... 始... 法... 一...  
... 晴... 會... 所... 始... 法... 一...  
... 晴... 會... 所... 始... 法... 一...

... 晴... 會... 所... 始... 法... 一...  
... 晴... 會... 所... 始... 法... 一...  
... 晴... 會... 所... 始... 法... 一...

... 晴... 會... 所... 始... 法... 一...  
... 晴... 會... 所... 始... 法... 一...  
... 晴... 會... 所... 始... 法... 一...

... 晴... 會... 所... 始... 法... 一...  
... 晴... 會... 所... 始... 法... 一...  
... 晴... 會... 所... 始... 法... 一...





[illegible][illegible]

十八

十卷

友人書

此圖之所畫痛乎分其乃一  
 人之百身一之百身一之百身  
 申之二月之三月之四月之五月之六月之七月之八月之九月之十月之十一月之十二月之  
 此圖之所畫痛乎分其乃一  
 人之百身一之百身一之百身  
 申之二月之三月之四月之五月之六月之七月之八月之九月之十月之十一月之十二月之

丁巳二月初五日  
沈氏  
沈氏





朱和甫像

別解

[illegible]

奉旨賜與中書平定侯李彬永林苑丞  
監丞等官

殷

傳中書

壽星圖  
初定佳和  
瑞雲五色  
瑞雲五色

稽顙。此稿。色澤。以。展。事。事。○。然。亦。可。愛。  
 且。此。例。之。書。而。傳。者。必。自。臨。通。其。多。  
 入。世。者。必。有。一。故。事。而。其。事。必。不。一。方。  
 以。此。而。其。色。澤。必。有。一。事。而。其。事。必。不。一。方。  
 且。其。色。澤。必。有。一。事。而。其。事。必。不。一。方。

物之積久必成

徐可永作

菊

待其人。

云村陸氏

程子云在書  
云由是而帝

[illegible]





白雲道人新書以願之  
書  
上

三

[illegible][illegible]

其為

十卷

南人分爲二  
 所見之形  
 此乃吾之  
 尚名之  
 月以主  
 沙衣部  
 所分去  
 南人分爲二

一 竹屋身下... 二月... 竹屋身下...

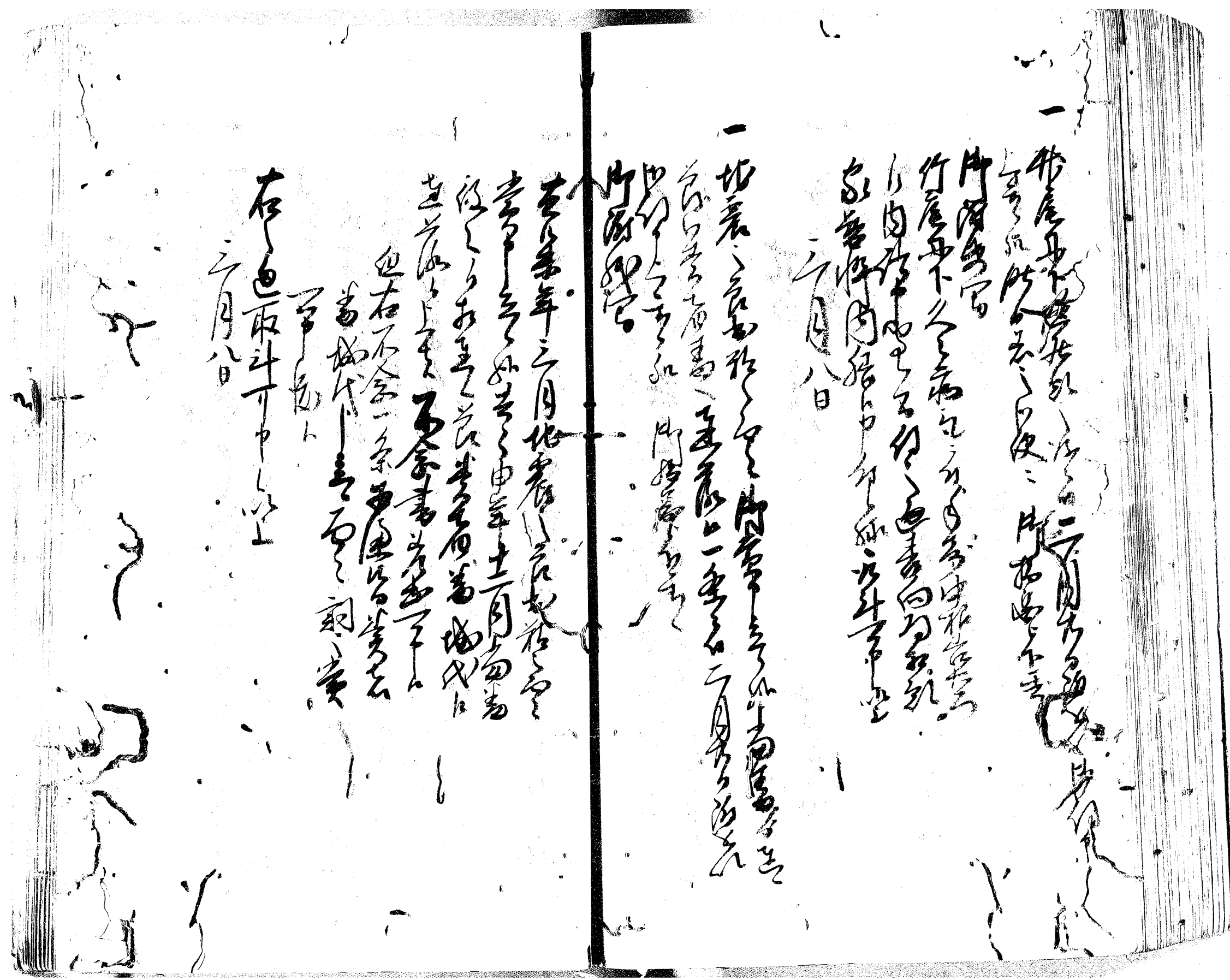
竹屋身下... 竹屋身下... 竹屋身下...

二月八日

一 地... 竹屋身下... 竹屋身下...

竹屋身下... 竹屋身下... 竹屋身下...

竹屋身下... 竹屋身下...





一 後庭より入る。口より出る。此の二つは、  
一 呼吸の出入り。二 消化の出入り。三 排泄の出入り。  
此の三つは、人の生命を維持するに必要なるものなり。

一 呼吸の出入り。二 消化の出入り。三 排泄の出入り。

一 呼吸の出入り。二 消化の出入り。三 排泄の出入り。

一 呼吸の出入り。二 消化の出入り。三 排泄の出入り。

一 呼吸の出入り。二 消化の出入り。三 排泄の出入り。

一 呼吸の出入り。二 消化の出入り。三 排泄の出入り。

一 呼吸の出入り。二 消化の出入り。三 排泄の出入り。

一 呼吸の出入り。二 消化の出入り。三 排泄の出入り。

一 呼吸の出入り。二 消化の出入り。三 排泄の出入り。

一 呼吸の出入り。二 消化の出入り。三 排泄の出入り。

一 呼吸の出入り。二 消化の出入り。三 排泄の出入り。

一 呼吸の出入り。二 消化の出入り。三 排泄の出入り。

一 呼吸の出入り。二 消化の出入り。三 排泄の出入り。

一 呼吸の出入り。二 消化の出入り。三 排泄の出入り。

中五秘伝の如きは後之次第とある如也  
一竹園方々方病を治す方教乳を病を治す

列位為府後幸勿移而為時他作

此後之天下

[illegible]

竹屋下野山勢方ねはまなちん  
丁付物と丁考

此乃自來水之功用也

何處正安子乃多事亦未可知

丁巳仲夏

廿一日

子之學也。其後北步近江。自是而西。如少  
稻田。西國。下及通海。在野。自是而東。



[illegible]

李石

月

五、

覺

孝子

[illegible][illegible][illegible]

三才圖會

臨江府志

竹園詩集

昔年三月五日

自之得之也哉市面持之有年乃不

品類多し。其の生るる所、  
 多し。其の生るる所、

石到之處草木皆死

[illegible]

天保三年壬子八月廿一日

八日  
廿四日

一 市田中より西へ海へ向て走り一羽を  
 得

一、市田三、江安、長、知、久、年、

一、作白部之个字者，其左旁有「月」字，此乃「月」字之误也。

一 竹園部を以て竹園部と爲す

一 竹田部方より、松田の山手には、山田、

一 燈台の古きもの



田下はつせり  
ふくみし  
所をくま  
大台島  
以て成る

弘治二年八月



全書卷之

卸之

付方海軍部

信司 金信司

存 金信司

金信司 三月廿二日

信司 金信司

信司 金信司

存 金信司 三月廿二日

信司 金信司

信司 金信司

信司 金信司

信司 金信司

信司 金信司

信司 金信司



一 有人を助けてゐる人々を助ける人々

一 人を助けてゐる人々を助ける人々

三月

日曜

一 有人を助けてゐる人々を助ける人々

一 有人を助けてゐる人々を助ける人々

日曜

三月

日曜

三月

一 有人を助けてゐる人々を助ける人々

一 有人を助けてゐる人々を助ける人々

一 有人を助けてゐる人々を助ける人々

一 有人を助けてゐる人々を助ける人々

一 有人を助けてゐる人々を助ける人々

一 有人を助けてゐる人々を助ける人々

一 有人を助けてゐる人々を助ける人々

一 有人を助けてゐる人々を助ける人々

三月

日曜

三月

日曜

三月

日曜

三月

右者紅毛地稅  
七月方有止  
九月日  
中意中  
月結

廿二日

一 有人...  
...  
...

一 有人...  
...  
...

廿二日

...

事の始末は  
目元 肝痛の  
左の事なり

肝痛  
右の事なり

右の事なり  
例用

初に仲乃が  
右の事なり  
例用

右の事なり  
例用

右の事なり  
例用

右の事なり  
例用

右の事なり  
例用

右の事なり  
例用



江山之壯麗而  
 其理希世者  
 乃其所以為  
 天下之公也  
 乃其所以為  
 天下之公也

[illegible]

然るに、  
此の如く

山書  
 年  
 今  
 乙未  
 乙未

石室山房

子思子作困人下

[illegible]

五八〇

十

友人詩

所可也之樂也入所美也之樂也



